

南リジョン第25回大会報告 No.2

第25回SIA日本南リジョン大会が、4月14日・15日の二日間、大分県で開催されました。

今回は、女性に機会を与える賞の表彰式にて、私共SI沖縄推薦の仲村静加さんが、アメリカ連盟賞及び日本南リジョン賞を受賞し、ダブル受賞という嬉しい報告となりました。

大会での講演テーマは「変化を受け入れる」でした。世界中で女性と女兒の生活を向上させるという、ソロプチミストの使命を实践する上で、この「変化を受け入れる」ということは、極めて重要なことであり、それは又、クラブ・リジョンそして連盟が繁栄し続けるために不可欠なことであるとお話は、今後のソロプチミスト活動への大事な示唆を与えているのだと思われま



南リジョントレジャー
新城伸子

ユースフォーラム開催

6月4日に「女性と女兒の住みやすい街づくり」のテーマで、尚弘子先生を講師にお迎えし那覇市の「とまり会館」にて開催されました。

8月4～5日福岡市にて、2011ユースフォーラム(主催 日本南リジョン・後援 国連ハビダット)が開催され、昭和薬科大学附属高等学校2年の河間美智さんが参加しました。フォーラムを通じて国際的な視野を養うとともに、学びあい、友情を育むことを目的としています。



河間さんは、4日の前夜祭では、三味線や手拍子、踊り等でリーダーシップを発揮し、5日のディスカッションでは、英語力がひときり目立つ程素晴らしいものでした。今後の活躍が大いに期待されます。

会長エレクト 砂川 正子

国際ソロプチミスト沖縄 認証記念日・奨学金贈呈式



沖大新城学生部長



余興の審査員



にこやかに参加

10月25日は、沖縄クラブが誕生した日として「認証記念日」として毎年ゲストをお迎えしてお祝いの行事を開催しています。この席で県内の大学生に奨学金を贈ることになっており、今年は沖縄大学の川田千裕さんと瀬底言さんに助ましのエールをこめて奨学金が贈呈されました。これまで延べ32名の方たちが選ばれています。沖大の新城奨学生部長からお礼の言葉がありました。

また当クラブがスポンサーをつとめるキリスト教学院大学・短大のΣソサエティ、沖縄尚学高校のSクラブへの助成金の贈呈もあり、各クラブの活動に大きな拍手が送られました。認証36回を記念して、チャーターメンバーの城間緑会員と大城光代会員による「ソロプチミスト沖縄を語る」のスピーチもあり、新しい会員が知ることのできなかったクラブ発展の歴史を語っていただきました。

懇親会は喜喜会会員の華麗な琉舞とSクラブの音による集中心に溢れたハンドベルの音色に包まれて、認証記念日を祝いました。



ハンドベルの調べ



奨学金受賞者



チャーターメンバーの皆さん

赤い羽根共同募金でやさしいまちづくりを

婦人や子ども、高齢者や障害者、地域の福祉活動への支援、さらに災害時には「災害ボランティアセンター」の設置運営にも役だっている赤い羽根共同募金活動を今年も行いました。三越前で多くの方のご協力をいただくことができました。心より感謝申し上げます。



アメンボキャンプ便り

手際よく美味しいバーベキュー

今年のアメンボキャンプは、8月17日、「沖縄整技療護園」園舎で行われました。総勢105人の参加です。園生の面倒を見る学生、慣れない手付きで刻み食を作る学生等々が印象的でした。園長から31年間の継続事業に感謝の言葉があり、会場から盛大な拍手が送られました。



アメラジアンスクールに助成金

9月例会でセイヤー・みどり校長に、恒例の助成金が贈られました。今年で11年目を数える継続支援事業です。セイヤー校長は「これまで450人の生徒たちの健康診断を行うことができた。高校受験に必要な内申書に健診結果を添付することができました。近視が分かり、眼鏡を買って勉強にも身が入るようになった生徒もいます。皆さんに感謝を捧げます」と喜んでいただきました。



新入会員紹介



月津会員 富山会員

28年間の外国生活でもボランティアを続け、帰国後は、沖縄国際婦人クラブへ参加したり将校婦人クラブで翻訳や通訳などのボランティアをしたりして参りました。沖縄の35カ所の福祉施設へ寄付をするという活動のお手伝いができたことは、幸せなことでした。

この度、国際ソロプチミストの一員として、幅広い年齢の皆様方と活動を共にさせて頂く事になりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

月津 千恵子
ファームINナビーの里の体験活動で、子ども達が稲や芋、野菜を育て、稲刈りから調理と「自然に親しみ心豊かな子どもの育成を」と食育を通じた活動をしています。また、人権擁護委員連合会男女共同参画社会推進部会長として、女性の人権ホットライン等の活動をして参ります。

素晴らしい実績のあるソロプチミストの一員として、魅力的でバイタリティー溢れる皆様方と活動を共にさせていただく事になりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

富山 君子

被災地でのボランティアに参加して

3月11日の東日本大震災後、6月下旬から7月に掛けて、10日間の日程で気仙沼でのボランティアに行く事になりました。行く前提事項として、作業に着ける服や、軍手、雨靴を用意。滞在の為に自分の食事、寝具等は持参または現地にて調達する等を条件に参加。被災地での主な仕事は、カウンセリング等々、無事10日間の働きを終えることができました。

石川美智子会員



那覇高六期生「戦時下の学童たち」を出版して

この本は去る大戦で唯一悲惨な地上戦を経験した同期生252名の当時の所在地によって体験した様々な記録をまとめ今年の「慰霊の日」を目途に出版しました。掲載された33名の一人ひとりが精魂込めて書き綴った戦争体験です。最近体調の悪かった人、入退院を繰り返しながら書いた人も、本の出版にこぎつけた事で元気をとり戻しました。小学校四・五年の頃の記憶が鮮明に記録されています。現在私共は喜寿を迎えています。皆さまにぜひ読んでいただきたいと思っています。

名城郁子会員



DV被害者自立支援のための檜の木基金収支報告

平成23年4月1日～9月30日

定期預金 5年もの 1,002,400円 満期 平成27年10月13日
定期預金 1年もの 1,000,000円 満期 平成24年10月13日

収入

平成22年度前期より繰越金 2,184,157円
今期募金 47,732円
返還金 178,000円
銀行利息 166円
合計 2,410,055円

支出

支援7件 508,000円
銀行手数料 210円
(平成23年1号・同2号 完済)
合計 508,210円

平成23年度後期への繰越金 1,901,845円

募金にご協力くださった方々に感謝申し上げます。

2011年度以降クラブ予算からの拠出は中止し、檜の木BOXによる募金で運営しています。

檜の木基金委員会委員長 大城 光代